

「そりゃ」の意味機能 「それは当然～だ」という意味を持つ場合

八木真生（名古屋大学国際言語文化研究科大学院生）

anzaimaki@hotmail.com

1. はじめに

(1)の「そりゃそうだ」は、「それは当然だ」という意味を持つ。「そりゃ」は許容されるが、主題の省略形式の「」は許容されない。

(1)（昼夜逆転のリズムから抜け出せないと言うT M 3に）

Y K 2：そうかな。3日ぐらいそれで、あの9時に無理やり9時に起きて、(うん)で一、まあどんなに遅くなっても9時に起きてっていうこと繰り返してたら、ま、12時ぐらいに眠くなるんじゃないですか？

T M 3：どうかなあ。

Y K 2：そりゃ{* /それは}そうですよね。だって、眠くなってきたら、寝ちゃうでしょう？

本研究では「そりゃそうだ」を出発点とし、「そりゃそうだ」がなぜ「それは当然だ」という意味を持つのかを説明する。さらに、述部に「そうだ」を含まないが、「そりゃ」を含む文全体で「それは当然～だ」という意味を持つ例を検討し、「そりゃ」の意味機能を明らかにすることを目的とする。尚、本研究で検討する「そりゃ」の例はすべて「それは」で言い換えることが可能であるが、表記を簡略化するために、「それは」も「そりゃ」もすべて「そりゃ」で代表させた¹。

2. 「そりゃそうだ」

「そりゃそうだ」の形で用いられるのは、話し手が、言語的あるいは非言語的先行文脈で述べられたり起こったりしたことがらを納得する、あるいは相手に納得させる文脈である。そして、これらの文脈において「そりゃそうだ」は「それは当然だ」という意味を表す。「そりゃ」による主題化と「」の機能の違いに注目し、検討していく。

¹ 「それは当然～だ」という意味を持つ「そりゃ」の例に「それは」で言い換え不可能なものがあるため、本研究ではすべて「そりゃ」で代表させたが、「それは」で言い換え不可能な例は本稿では扱わない。

(2) 「そりゃ」による主題化の機能：「それ」が先行文脈を指示し、その指示対象を当該文の主題として明示化する

主題の省略の機能：省略を含む文を直前の文に結びつける

2.1 話し手が納得する文脈

(3) (静岡で止まらない新幹線に乗ってしまい、新横浜まで行った話)

S N 1：ほいで下りのに乗ったらさ、車掌回ってきやがってさ、別に俺キセルしてるわけじゃないんだからいいんだけどさ。こうこうこうだから、乗り越しちゃったって。今度から気をつけてくださいねって。何か俺が怒られちゃってさ、怒られたってというか、気をつけて、そりゃ{* /それは}そうだ。

「そうだ」が肯定するのは、「そりゃ」が含む「それ」の指示対象(以下簡略化して「『そりゃ』の指示対象」)の「乗り越して戻ってきたら怒られること」である。一方「 」を用いると、直前の文「気をつけて」を肯定することになる。しかしこれでは、S N 1が最初は怒られるようなことはしていないと思っていたにも関わらず、いきなり「気をつけるべきだ」と主張することになってしまい、文脈に合わない。そこで「そりゃそうだ」を用いて、最初は怒られるようなことはしていないと思っていたのだが、主題について再考した上で納得したことを表している²。

ところで(3)の「そりゃそうだ」は、「乗り越して戻ってきたら怒られるのは当然だ」という意味を表す。納得せざるを得ないような根拠(ここでは「乗り越してもどるのもキセルもしていることは同じだ」という事実)を前にして納得するという文脈で用いられることから、「そりゃそうだ」に「それは当然だ」という意味が発生する。

2.2 相手に納得させる文脈

冒頭の(1)では、主題「9時に無理やり起きる生活を繰り返していたら12時ぐらいには眠くなること」に納得しない相手に対して、「そりゃそうだ」を用いて、主題について再考させ、その上で納得させることを表している。ここでは、

² 話し手(あるいは相手)が主題について発話時点以前に当然のこととして納得しているかしていないかが先行文脈から不明な場合は、「そりゃそうだ」も「()そうだ」もどちらも許容される。つまり、主題について再考しなければならない状況において「そりゃそうだ」の使用が義務的になる。そこから、「再考した上で」という意味が発生するわけである。

相手を納得させるための根拠が、直後に「だって」を使って提示されている。

「そりゃそうだ」の使用が義務的で、「() そうだ」の使用が禁止されるのは、以下の場合である。

(4) 話し手あるいは相手が、主題について、発話時点以前に当然のこととして納得していないことが、先行文脈から明らかな場合

3. 述部に先行文脈の一部の繰り返しを含む例

(5) で W A 1 の「疲れた」を受けて S E 2 が述べたいのは、「5 時間もマイクロフィルムを見続けたら疲れるわ」である。「() 疲れるわ」は、「疲れた」と事実を述べている W A 1 に用いるのは、不適切である。したがって、「5 時間もマイクロフィルムを見続けること」を指示し主題化するには「そりゃ」を用いなければならない。そして述部で「疲れるわ」と述べることにより、意外なことのよう「疲れた」と言う W A 1 に対して当然のこととして納得させることになる³。

(5) (W A 1 がマイクロフィルムでしか残っていない文献を読んだ話)

W A 1 : そのさ、マイクロフィルムでしか残ってないのよ。(何それ) 何か、こう、機械に(うん) 何か、フィルムみたいに(ふーん) 乗せて、機械で、こう見るんだけど。(うん) でもね、ひたすらこう、濁点と半濁点を見て、(うん) もうね、気づいたら 5 時間たってて。

S E 2 : えーっ、疲れたね。

W A 1 : 疲れた。

< 笑い >

S E 2 : そりゃ { * } 疲れるわ。

4. 「そりゃ」で相手の質問を受けて答える例

(6) では、先行する Y K 2 の発話は質問であり、話し手の T M 3 にとって、Y K 2 がその質問についてどのような意見を持っているかを想定することは不可能である。したがって、「そりゃ」で相手に再考を求めなければならない状況ではない。「」で、自分の一意見として述べることも可能である。一方「そりゃ

³ (5) で「疲れる」を代用の「そう」で言い換えると多少不自然である。W A 1 の発話の最後が「気づいたら 5 時間たってて疲れた」であれば、「そう」による言い換えの許容度が上がるようである。

あ」を用いると、「幽霊話信じてないのにしてる方が(罪は重い)」という意見を当然のこととして述べることになる。

(6) Y K 2 : どっちが罪は重いですか？こう、(え?) 幽霊見たと思って語ってる人と、(うん) 幽霊信じてないのに、幽霊話をしてる人と。

T M 3 : そりゃあ{ } 幽霊話信じてないのにしてる方が。

5. 「こりゃ」と「ありゃ」

「これは」「あれは」の縮約形「こりゃ」「ありゃ」も、主題を現場指示あるいは文脈指示できるような場合は、文全体で「これは/あれは当然～だ」という意味を持ち得る。

(7) (テレビで若手人気演歌歌手の氷川きよしが歌っているのを見たベテラン歌手が)

こりゃ{ありゃ/* } 売れるわ。 [実例]

しかし、相手や自分の発話内容を受けるソ系列の「それ」を含む「そりゃ」に比べればその状況が非常に限定される。

6. 今後の課題

本稿で扱わなかった、「そりゃ」の指示対象が先行文脈に特定できない例、「そりゃ」を「それは」で言い換え不可能な例についても検討したい。さらに、「それは当然～だ」という意味を持たない「そりゃ」の表す意味も明らかにしていく。

用例の出典

(7) 以外はすべて「名大会話コーパス」から収集した。

参考文献

岡本真一郎・多門靖容(2002)「『そうです』型応答詞の使用の規定因」『人間文化』(愛知学院大学人間文化研究所) 17号

砂川有里子(1990)「主題の省略と非省略」『文芸言語研究 言語篇』18

堀口純子(1988)「話しことばにおける縮約形と日本語教育への応用」『文芸言語研究 言語篇』第6号

(1997)『日本語教育と会話分析』、くろしお出版